

内令提  
要登載

内令第千七百七十七號

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 鳴田 繁太郎

軍艦 須磨

内令提  
要登載

内令第千七百七十八號

横須賀鎮守府在籍

軍艦 春日

吳鎮守府在籍

軍艦 淺間

舞鶴鎮守府在籍

軍艦 吾妻

軍艦 占守

軍艦 國後

内令

1107

1292

内令  
要  
登  
載

内令

右帝國軍艦籍ヨリ除カル  
昭和十七年七月一日

内令第千七百七十九號

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

海軍大臣 嶋田繁太郎

軍艦 石垣  
軍艦 八丈

海防艦 占守

海防艦 國後

海防艦 石垣

海防艦 八丈

特務艦 春日

特務艦 淺間

一一〇二

1293

内令

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

右警備海防艦ト定メラル

特務艦 吾妻

舞鶴鎮守府在籍

海防艦 國後

海防艦 石垣

海防艦 八丈

横須賀鎮守府在籍

特務艦 春日

吳鎮守府在籍

特務艦 淺間

舞鶴鎮守府在籍

特務艦 吾妻

1103

内令

一一〇四

右第四豫備特務艦ト定ム

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第千百八十號

特設砲艦隊編制中左ノ通改定セララル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三砲艦隊ノ項ヲ削ル

第五砲艦隊ノ項中「京城丸、」ヲ削ル

(内令提要卷一、一四二ノ三頁参照)

内令第千百八十一號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セララル

内令提要  
要登載

内令提要  
要登載

内令  
要  
登  
載

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第三監視艇隊ノ項中「第八號住吉丸、」ヲ削ル

(昭和十七年内令第三百五十三號參照)

内令第千八百八十二號

昭和十七年内令第六百五十五號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府、横須賀防備隊哨戒艇ノ項中ニ「第一號、第二號」ヲ加フ

横須賀鎮守府、第六十四警備隊、第六十五警備隊魚雷艇ノ項ノ次

哨戒艇
第一號、第二號、

第三十四號、第三十五號」ヲ削ル

吳鎮守府、佐伯防備隊哨戒艇ノ項中「第三十一號」ノ下ニ「第三十四號、第三十五號」ヲ加フ

内令

一一〇五

参照 昭和十七年内令第六百五十五號ハ特務艇ノ本籍及所屬ノ件ナリ

内令第千八百三十三號

昭和十七年内令第六百五十八號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

吳海軍警備隊ノ項特設監視艇ノ欄「第五春成丸」ヲ削ル

第八十一警備隊ノ項特設監視艇ノ欄ニ「第三萬千穂丸、瑞邦丸、興生丸、第一海洋丸、第二あらふら丸」ヲ加フ

参照 昭和十七年内令第六百五十八號ハ特設特務艇ノ所屬ノ件ナリ

内令第千八百八十四號

内令  
要登載

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

汽船 京城丸

汽船 南浦丸

内令  
提  
登  
載

右特設砲艦トシ舞鶴鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル。

漁船 第八號住吉丸

右特設監視艇トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

漁船 第五春成丸

右特設監視艇トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 大井丸

右特設運送船(給糧船)トシ佐世保鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

汽船 日産丸

右特設運送船(給炭油船)トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

昭和十七年七月一日  
海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第千八百八十五號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

内令

一一〇七

内令

一一〇八

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

船名	特設艦船名	所管
漁船 第三高千穂丸	特設監視艇	横須賀鎮守府
同 瑞邦丸		
同 興生丸		
同 第一海洋丸		
同 第二あらふら丸		

内令  
委登載

内令第千百八十六號  
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1299



内令提  
要登載

軍艦、巡洋艦一等青葉型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

八雲、磐手、出雲

同海防艦ノ項ヲ削ル

同砲艦ノ部中「多多良」ノ下ニ「須磨」ヲ加フ

潜水艦ノ欄ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

海防艦 占守型 占守、國後、八丈、石垣

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第千八百八十七號

特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

練習特務艦ノ項中「敷島」ノ下ニ「淺間、吾妻、春日」ヲ加フ

内令

一一〇九

内令  
提  
登  
載

内令

一一〇

(内令提要卷三、四〇頁参照)

内令第千八百八十八號

昭和十六年内令第千二百二十六號横須賀鎮守府ノ項中「第二聯合特別陸戰隊」ヲ削ル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 前記内令ハ戦時編制實施中艦隊等ノ司令部附特務士官以下ノ補充鎮守府ノ件ナリ

内令第千八百八十九號

氣象關係暗號書表配付標準左ノ通定ム

現品ハ海軍文庫ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(別表一葉添)

1301



内令提  
要登載

内令第九十號

横須賀鎮守府第四豫備特務艦

特務艦 春日

吳鎮守府第四豫備特務艦

特務艦 浅間

右當分ノ間定員ヲ置カズ

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第九十一號

特設艦船部隊定員令中左ノ通改正セララル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

特設警備隊定員表其ノ五中「第三十二表ノ六」ヲ「第三十二表ノ七」ニ、「其ノ五」ヲ「其ノ六」ニ改ム

内令

内令

一一二

特設警備隊定員表其ノ五ヲ別表ノ如ク定ム

特設警備隊定員表其ノ六中「第三十二表ノ七」ヲ「第三十二表ノ八」ニ、「其ノ六」ヲ「其ノ七」

ニ改ム

特設警備隊定員表其ノ七中「第三十二表ノ八」ヲ「第三十二表ノ九」ニ、「其ノ七」ヲ「其ノ八」

ニ改メ「第八十二」ノ下ニ「第八十四」ヲ加フ

(別表一葉添)

(内令提要卷一、五六二頁参照)

内令第九百九十二號

昭和十七年内令第七百六十六號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

「第二聯合特別陸戰隊司令部職員表及」及「各」ヲ削ル

別表第二聯合特別陸戰隊司令部職員表ヲ削ル

鎮守府特別陸戰隊職員表中舞三特ノ欄及同表特修兵ノ部舞三特ノ項ヲ削ル

内令提要  
要登載

内令  
要登載

参照 昭和十七年内令第七百六十六號ハ第二聯合特別陸戰隊司令部職員表及領守府特別陸戰隊職員表ヲ定ムルノ件ナリ

内令第千百九十三號

海軍定員令中左ノ通改正セラル

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

砲艦定員表其ノ八ヲ別表ノ如ク定ム

(別表一葉添)

(内令提要卷一、一四六頁参照)

内令  
要登載

内令第千百九十四號

特修兵教員配置規則中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田 繁太郎

特修兵配置表其ノ十三中橋立、宇治ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

内令

一一三



特設警備隊定員表 其ノ五

考 備	計		隊		隊		司		第 五	第 五						
	特	士	附		附		副	令								
	務	官	主計	機	主計	中	少	大								
一 中少尉、特務中少尉ハ合計員數ノ範圍内ニ於テ彼此増減スルコトヲ得 二 下士官及兵ハ合計員數ノ範圍内ニ於テ彼此増減シ又他科ノ下士官及兵ヲ以テ充ツルコトヲ得 三 特修兵ハ適宜トス	十二人	十二人	一	一	一	一	一	一	一	一						
	兵	下 士 官	准 士 官	主 計 兵	看 護 兵	工 作 兵	機 關 兵	水 兵	主 計 兵	看 護 兵	工 作 兵	機 關 兵	兵 曹 長			
	五百十一人	百六十二人	十五人	二十九	十	十	百	三百六十二	四	三	三	三十三	百十九	一	一	三



第七十一表ノ二

(昭和十七年内令第千九百九十三號)

考 備	計		乘 組  特務中少尉 機關特務中少尉	分主 隊計 長兼 長兼	分軍 隊醫 長兼 長兼	分機 隊關 長兼 長兼	乘 組  中 少 尉	分 隊 長  大 尉	分航 隊海 長兼 長兼	艦 長  中 少 佐	砲 繼 定 員 表 共 ノ 八	須 磨	須 磨							
	特	士												主 計 大 尉	軍 醫 大 尉	機 關 大 尉	大 尉	大 尉	大 尉	一
	務	官																		
兵	下 士 官	准 士 官	主 計 兵	看 護 兵	工 作 兵	機 關 兵	水 兵	主 計 兵 曹	看 護 兵 曹	工 作 兵 曹	機 關 兵 曹	兵 曹	機 關 兵 曹 長	一						
	六十七人	二十二 人	一 人	四	一	三	二十	三十九	二	一	一	八	十	一						

一 特務中少尉ハ掌砲長兼掌運用長ニ充ツ  
 二 機關特務中少尉及機關兵曹長ノ中一人ハ機關長、一人ハ繼長ニ充テ共ノ一人ハ掌機長ヲ  
 兼ネシムルモノトス

内令千百九十五號(所要ノ向ヘ配付)

限定配付ニシテナク

内令千百九十六號

昭和十六年内令千四十七號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

別表第二横須賀鎮守府ノ部中第五砲艦隊ノ項「三(各艦一)」ヲ「二(各艦一)」ニ改メ第二聯合特別  
陸戦隊司令部ノ項ヲ削ル

同吳鎮守府ノ部中第四十三警備隊ノ項ノ次ニ

第八十四警備隊

一
一
一
一
一
一

ヲ加フ

同舞鶴鎮守府ノ部中舟山島警備隊ノ項ノ次ニ

第五警備隊

一
一
一
一
一
一

ヲ加フ

参照 前記内令ハ科長兼分隊長等定員中特務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムルノ件ナリ

内令

一一七

1309

内令第千九百九十七號

昭和十五年内令第四百二十四號中「國後、石垣、八丈」ヲ削ル

同年内令第八百七十八號中「占守」ヲ削ル

昭和十六年内令第四百八十七號中「第五十一驅潜隊」及「第五十三驅潜隊」ヲ削ル

同年内令第四百八十九號中「第二京丸」、「第十二京丸、第十三京丸」及「興嶺丸」ヲ削ル

同年内令第四百九十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年内令第千八百八十二號中「兵曹」ヲ「兵曹、機關兵曹」ニ改ム

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

參照

昭和十五年内令第四百二十四號ハ軍艦自鷹等ノ人員臨時増減ノ件

同年内令第八百七十八號ハ霞ヶ浦海軍航空隊等ノ人員臨時増減ノ件

昭和十六年内令第四百八十七號ハ第五十一驅潜隊等ノ人員臨時増減ノ件

同年内令第四百八十九號ハ特設掃海母艦射水丸、いくしま丸ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第四百九十一號ハ特設掃海母艦射水丸、いくしま丸ニ人員臨時増置ノ件

昭和十七年内令第千八百八十二號ハ横須賀海軍人事部等ニ人員臨時増置ノ件

1310



内令第千九十八號

昭和十八年内令第百二十八號  
ニテ本號廢止

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十三年内令第八百二十二號及昭和十七年内令第八百四十三號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十一特別工作部（救難船兼曳船第五吳ノ乗員ニ充ツベキモノ）

兵	科	佐	尉	官	部員	一人
特務中	少尉	兵曹長	附			一人
機關特務中	少尉	機關兵曹長	附			一人
兵	曹	水	兵			十六人
機關	兵	曹	機關	兵		二十二人
工作	兵	曹	工作	兵		一人 (特修兵適宜)
看護	兵	曹	看護	兵		一人
主計	兵	曹	主計	兵		一人

内令

一一九

1311

内令

二二〇

本人員中特務士官以下ハ吳鎮守府在籍者ヲ以テ充ツルモノトス

参照 昭和十三年内令第八百二十二號ハ救難船第五吳ヲ第二遣支隊司令部ニ供用中同船ノ乗員ニ關スル件ナリ

昭和十七年内令第八百四十三號ハ佐世保鎮守府(救難船第五吳ノ乗員ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千九十九號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

本令ハ昭和十七年七月十五日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

佐世保防備隊(海威ノ乗員ニ充ツベキモノ)

- 少 佐、大 尉 隊附 一人
- 兵 科 尉 官 隊附 一人
- 特 務 中 少 尉 隊附 一人
- 機 關 特 務 中 少 尉 隊附 一人
- 兵 曹 長 一人



内令第千二百一號

昭和十七年内令第七百十八號中「四人(掌機兵)」ヲ「八人(掌機兵 一、掌内火兵 四)」ニ改ム

昭和十七年内令第八百七號中「舞鶴鎮守府第三特別陸戰隊」ヲ「第五警備隊」ニ改ム

昭和十七年内令第八百三十九號中第二聯合特別陸戰隊司令部ノ項ヲ削リ「舞鶴鎮守府第三特別陸戰

隊」ヲ「第五警備隊」ニ改ム

昭和十七年内令第八百二十六號(齊)、同年内令第八百四十五號(齊)及同年内令第九百十九號ハ之ヲ廢止ス(齊)

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照

昭和十七年内令第七百十八號ハ大湊防備隊(就運輸基地保守員ニ充ツベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百七號ハ舞鶴鎮守府第三特別陸戰隊ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百三十九號ハ第二聯合特別陸戰隊司令部等ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百二十六號ハ特設運送船衣笠丸ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第八百四十五號ハ第二艦隊司令部(善洋丸ニ乗船セシムベキモノ)ニ人員臨時増置ノ件

同年内令第九百十九號ハ第二艦隊司令部ニ人員臨時増置ノ件

内令第千二百二號

左ノ内令ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

昭和十七年内令第八百二號(第二聯合特別陸戰隊司令部ニ人員臨時増置ノ件) (齊)

同 年内令第八百十九號(第二聯合特別陸戰隊司令部等ノ人員臨時増減ノ件) (齊)

内令第千二百三號

昭和十六年内令第千七百七十八號中「百十七人」ヲ「百二十一」ニ改ム

同年内令第千二百七十五號中「二十八人(掌電信兵 二二) (横須賀鎮守府在籍者 二二)」ヲ「三十六人 (舞鶴鎮守府在籍者 二二)」ニ改ム

(掌電信兵 三〇) (横須賀鎮守府在籍者 二二) (吳鎮守府在籍者 一八)」ニ改ム

昭和十七年内令第四百五十四號中「特務中少尉、兵曹長隊附一人」ヲ「特務中少尉、兵曹長隊附二

人(内吳鎮守府在籍者 一)」「三十人(掌電信兵) (内吳鎮守府在籍者 一四)」ヲ「四十一人(掌

電信兵) (内吳鎮守府在籍者 二〇) (内佐世保鎮守府在籍者 一〇)」ニ改ム

内令

一一三三



内令

一二三四

同年内令第二百三十八號ハ之ヲ廢止ス

済

昭和十七年七月一日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照

昭和十六年内令第千七百七十八號ハ第三通信隊等ノ人員臨時減員ノ件  
同年内令第千二百七十五號ハ第六艦隊司令部等ノ人員臨時増減ノ件  
昭和十七年内令第四百五十四號ハ第八通信隊ニ人員臨時増置ノ件  
同年内令第二百三十八號ハ第三通信隊ニ人員臨時増置ノ件

1316



内令第千二百四號

昭和十八年内令第九二號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

ニテ本號廢止

昭和十六年内令第七百二十五號中「増減」ヲ「増置」ニ改メ「増員」及減員ノ項ヲ削ル

昭和十七年七月三日

海軍大臣 嶋田繁太郎

海軍潜水學校

兵科	特務士官	教官兼分隊長	一人
特務中少尉	兵曹長	附兼教官(教員)	一人
機關特務中少尉	機關兵曹長	附兼教官(教員)	一人
兵	曹	(教員)	五人 <small>(掌砲兵 高一、掌水雷兵 高三、特修兵適宜(暗號)一)</small>
兵	曹、水兵		十人
機關兵	曹、機關兵		六人
看護兵	曹、看護兵		一人

内令

二二五

1317

内令

主計兵曹、主計兵

三人(掌理兵一)

参照 昭和十六年内令第七百二十五號ハ海軍潜水學校ノ人員臨時増減ノ件ナリ

一三二六

1318

内令第千二百五號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十七年七月四日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十一航空艦隊司令部

主計特務中少尉、主計兵曹長

附 一人

○正誤



本年内令第千五百十四號及千五百十五號中「七月十日」ハ「七月二十日」ノ誤

内令

一三七

1319

内令第千二百六號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第一監視艇隊ノ項中「第三八千代丸、」及「第二三徳丸、」ヲ削ル

第二監視艇隊ノ項中「第五清壽丸、」及「第十二號八龍丸、」ヲ削ル

第三監視艇隊ノ項中「雄勝丸、」ヲ削ル

(昭和十七年内令第三百五十三號参照)

内令第千二百七號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十七年七月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

船名	特設艦船種別	所管
漁船 大盛丸		

内令

一一二九

内令  
要登載

内令

同	第五三國丸
同	第一福神丸
同	第三神光丸
同	第五神光丸
同	第六神光丸
同	第七神光丸
同	第五虎丸
同	事代丸
同	榮福丸

特設監視艇  
横須賀鎮守府

内令第千二百八號

昭和十七年内令第六百五十八號別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月五日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1130

1321



内令第千二百九號

昭和十三年内令第八百九十三號別紙中別紙ノ通改正ス

別紙ハ海軍艦政本部長ヲシテ所要ノ向ニ之ヲ配付セシム

昭和十七年七月六日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(昭和十三年内令第八百九十三號ハ潜水艇各種狀態ニ於ケル搭載物件重量配分標準ノ件ナリ)

内令

1133

1323



内令第千二百十二號

第十九潜水隊

吳鎮守府豫備潜水艦

伊號第百五十六潜水艦

伊號第百五十七潜水艦

伊號第百五十八潜水艦

伊號第百五十九潜水艦

右警備兼練習潜水艦ト定メラル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令第千二百十三號

第二十五號掃海艇

第四十號驅潜艇

第四十一號驅潜艇

内令

一一三七

内令

一三八

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト假定ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

驅逐艦 早波

内令第千二百十四號

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第七號掃海特務艇  
第八號掃海特務艇  
第九號掃海特務艇  
第十號特務掃海艇  
第十一號掃海特務艇

1325

内令  
登載

内令第千二百十五號

特設砲艦隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第八砲艦隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一四二ノ五頁参照)

内令第千二百十六號

特設掃海隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十三掃海隊ノ項ヲ削ル

(内令提要卷一、一四二ノ八頁参照)

内令

一一三九

内令

一三四〇

内令  
委登載

内令第千二百十七號

昭和十七年内令第六百五十八號別表中左ノ通改定ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第四十三警備隊ノ項特設掃海艇ノ欄ニ「高砂丸、第三玉園丸、烏嶋丸、安宅丸」ヲ加フ

参照 昭和十七年内令第六百五十八號ハ特設特務艇ノ所屬ノ件ナリ

内令  
委登載

内令第千二百十八號

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

汽	汽	汽
船	船	船
西京丸	弘玉丸	長田丸

内令提  
委登載

内令第千二百十九號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

船名	特設艦船種別	所管
汽船 長田丸	特設運送船(雜用船)	横須賀鎮守府
同 弘玉丸		

内令提  
委登載

内令第千二百二十號

特務艇ノ本籍及所屬別表ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

(別表一葉添)

内令

一四

1328

要内令提  
登載

内令

内令第千二百二十一號

昭和十六年内令第千二百二十六號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府ノ項中

第六水雷戦隊

ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ項中

第五潜水戦隊

ヲ削ル

参照 前記内令ハ戦時精製實施中艦隊等ノ司令部附特務士官以下ノ補充鎮守府ノ件ナリ

要内令提  
登載

内令第千二百二十二號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

驅逐艦、一等夕雲型ノ項中「清波」ノ下ニ「早波」ヲ加フ

一四二

1329

内令  
要  
登  
載

掃海艇、第十九號型ノ項中「第二十四號」ノ下ニ「、第二十五號」ヲ加フ  
驅潜艇、第十三號型ノ項中「第三十九號」ノ下ニ「、第四十號、第四十一號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

内令第千二百二十三號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

特務艇、驅潜特務艇第五十一號型ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第一百號、第一百二號、第一百三號

同掃海特務艇ノ項中「第一號型」ヲ「第三號型」ニ改メ「第一號、第二號、」ヲ削リ「第六號」ノ  
下ニ「、第七號、第八號、第九號、第十號、第十一號」ヲ加フ  
同魚雷艇ノ項ヲ左ノ如ク改ム

内令

一一四三

1330

内令

一一四四

魚  
雷  
艇

第一號型

第一百號

第一號、第二號、第三號、第四號、第五號、第六號

(内令提要卷三、四二頁参照)

1331





内令  
登規

1274-1234

廢止

内令第千二百二十四號

大東亞戰爭中特設艦船ニ非ザル海軍徵備船舶ニシテ武裝シタル場合ニ於テハ該船舶ノ所屬長官ハ兵曹、水兵四人（特修兵適宜）ヲ同船舶ニ乗船セシムルモノトス

前項ノ人員ハ當該船舶ノ所屬艦ニ臨時増置セラレタルモノトス

昭和十三年内令第七百四十一號ハ之ヲ廢止ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

參照 昭和十三年内令第七百四十一號ハ特設艦船ニ非ザル海軍徵備船舶ニシテ事變地ニ往復スル際警戒ノ爲人員ヲ一時乗船セシムルコトヲ得ルノ件ナリ

内令第千二百二十五號

昭和十八年内令第九十八號ニテ本號廢止

大東亞戰爭中左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

各海軍警備隊

内令

一一四五

1333

内令

一一四六

特務大尉 隊附兼分隊長

兵曹、主計兵曹

特務中少尉、兵曹長

一人

一人

一人 (特設見張所ニ關スル業務ニ充ツベキモノ)

(一般武装商船ニ關スル業務ニ充ツベキモノ)

内令第千二百二十六號

昭和十六年内令第千九十九號中「夕張」ノ下ニ「五十鈴」ヲ加フ

昭和十六年内令第四百八十八號中「第三砲艦隊」、「長田丸」及特設砲艦南浦丸ノ部ヲ削ル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

参照 昭和十六年内令第千九十九號ハ軍艦長良等ニ人員臨時増置ノ件  
同年内令第四百八十八號ハ第一砲艦隊等ニ人員臨時増置ノ件

内令第千二百二十七號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

1334



第四十二警備隊

工作兵曹、工作兵

五人(掌工兵)

内令第千二百二十八號

昭和十七年内令第千二百二十八號  
ニテ本號廢止

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和十七年七月八日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十七年内令第八百六號中少將出仕一人乃至技手附臨時三人ヲ削ル

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

横須賀鎮守府(工廠(假稱)設立準備ニ充ツベキモノ)

中少將 出仕 一人

少將、大佐 出仕 二人

造兵少將、造兵大佐 出仕 一人

主計科佐尉官 出仕 一人

技師 出仕 臨時一人

内令

二四七

1335

内令

一一四八

技 手 附 臨時三人

参照 昭和十七年内令第八百六號ハ海軍艦政本部ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千二百二十九號

昭和十七年内令第八百五號中左ノ通改正ス

本令ハ昭和十七年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

光海軍工廠（造機部設立準備員ニ充ツベキモノ）中人員ヲ左ノ如ク改ム

少 將、機 關 大 佐 出 仕 一 人

機 關 大 佐、造 機 大 佐 又 ハ 技 師 出 仕 一 人

機 關 中 佐、造 機 中 佐 又 ハ 技 師 出 仕 二 人

技 師 出 仕 臨 時 一 人

書 記 附 臨 時 一 人

1336

技 手 附 臨時七人

参照 昭和十七年内令第八百五號ハ光海軍工廠（造機部設立準備員ニ充ツベキモノ）等ニ人員臨時増置ノ件ナリ

内令第千二百三十號

當分ノ間左ノ通人員ヲ臨時増置シ昭和十七年七月二日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

第十五設營隊

軍醫科尉官 隊附 一人

看護兵曹、看護兵 五人

内令第千二百三十一號

昭和十七年内令第四百八十五號中左ノ通改正ス

昭和十七年七月十日

海軍大臣 嶋田繁太郎

内令

一一四九

1337

内令

一一五〇

人員ヲ左ノ如ク改ム

機關少佐、機關大尉	教官兼分隊長	一人	一人
軍醫科尉官	隊附	一人	一人
主計科尉官	隊附	一人	一人
兵科特務士官、准士官	隊附兼教官(教員)	一人	一人
整備科特務士官、准士官	隊附兼教官(教員)	六人	六人
機關科特務士官、准士官	隊附兼教官(教員)	二人	二人
工作科特務士官、准士官	隊附兼教官(教員)	三人	三人
兵曹	(教員)	二人	二人(掌砲兵 高)
整備兵曹	(教員)	五十五人	五十五人(掌整備兵 高)
機關兵曹	(教員)	四人	四人(掌電機兵 高)
工作兵曹	(教員)	十人	十人(掌工兵特又ハ高)
兵曹、水兵		二人	二人(掌電機兵 普)
整備兵曹、整備兵		五十九人	五十九人(掌整備兵 普)

(撥給三、仕上三、板金三、  
熔接三、木工三)

1338

機關兵曹、機關兵 十五人（掌機兵 普二）  
 看護兵曹、看護兵 四人  
 主計兵曹、主計兵 十四人（掌經理兵 普二、掌衣糧兵 普二）  
 工 作 兵 四人（掌工兵〔金工 本工 二〕）

參照 前記内令ハ横須賀海軍航空隊（整備術練習生ノ教務ニ充ツベキモノ）ニ人員臨時増置ノ件

内令第千二百三十二號

昭和十六年内令第千四十七號申左ノ通改正シ昭和十七年七月六日ヨリ之ヲ適用ス

昭和十七年七月十日

海 軍 大 臣 嶋 田 繁 太 郎

別表第二横須賀鎮守府ノ部中第二十一航空隊ノ項ノ次ニ

第十五設營隊

（隊附）

ヲ加フ

參照 前記内令ハ科長兼分隊長等定員中特務士官ヲ以テ充ツベキ位置ヲ定ムルノ件ナリ

内 令

二一五一

1339